

日本で飲もう最高のワイン2016
「ベスト日本ワイン」最高賞を獲得



写真：ドメーヌ茅ヶ岳の安部さん夫婦



茅ヶ岳南麓にある 小さなワイナリー

ベスト日本ワイン受賞 安部正彦

50代からの挑戦

初仕込みワインが最高賞の栄誉

平成28年9月に東京都内で開催された品評会「日本で飲む最高のワイン2016」で、「トメヌ茅ヶ岳」（上ノ山地区）の赤ワイン「アダージョ上ノ山2015」が、「ベスト日本ワイン」に輝きました。

ワイナリーの代表である安部正彦さんは、以前大手電機メーカーに勤めており、50歳を過ぎてから山梨大学大学院のワイン学科コースで、平成24年から2年間ぶどうの栽培とワインの醸造方法を学びました。

元々、安部さんのご両親はぶどう農家をしており、父親が高齢になり、ぶどう農家を継ぐことを考えました。実家では、生食用のほか、県内のワイナリー向けにマスカット・ベリーA、甲州という品種のぶどうを栽培していました。しかし安部さんは「生活するだけなら今までどおりでよかったけど、山梨県のぶどうとワインは全国でもメジャーであり、ブランド化されていて、他の県と比べると非常に

有利。このブランド化された資産は有効活用できる。」と話していました。

会社を早期退職し、ワイン造りの道へ進むと決めた安部さんですが、妻の幸子さんは「最初は反対でした。やりたいと言っていたので、しょうがなく説得に根負けしました。夫婦二人で仕込みから収穫、瓶詰めまで全て手作業なので、重労働でとても大変な仕事です。」とワイン造りの大変さを話してくれました。それでも一緒に夢を追い求めた幸子さんの支えがあったからこそ、今回の賞を受賞できたのだと感じました。



恵まれた自然で育ったぶどう 韮崎のワインには「夢」がある

11月17日には受賞の報告に市役所を訪れ、内藤久夫市長から激励を受け、安部さんから「市長にもワインを飲んでいただきたい」ということで受賞されたワインをプレゼントしていただきました。

「ベスト日本ワイン」を受賞されたとき安部さんは、嬉しさよりも、ここまでくるまでに意見を出し、助けてくれた方々への感謝の気持ちが大きかったそうです。また、「初めての仕込みのワインということもあって、ワインの評価がいいのか悪いのか、第三者

の意見が気になり、市場に受け入れられるワインかどうか不安でした。」と話していました。しかし今回の受賞により、自分が今までやってきたことが間違っていないことが証明できたことが、次のステップへと繋がったそうです。最後に、甲州で白ワイン、ヨーロッパ種のぶどうでワインを造り自分の挑戦を引き金に、「上ノ山でワイン造りを目指す人が増えることを願っています。」と今後の展望を語ってくれました。



▲「アダージョ上ノ山2015」をプレゼントする安部正彦さんと内藤久夫市長

韮崎の豊かな自然を 活かした至極の逸品

安部さん夫婦が2人で収穫したマスカット・ベリーAを醸造した「アダージョ上ノ山2015」。

完熟したぶどうを使用することで、イチゴのような甘い香りのするフラネオールという香り成分を早めに収穫したぶどうよりも10倍以上多く含んでいます。果実香が強く、色の濃い仕上がりワインとなっております。

銘柄にもある「アダージョ」とは音楽用語で「ゆったり」という意味で、ワインを飲みながらゆっくり、ゆったりと過ごしてもらいたいという願いが込められています。

商品の詳細については、ドメヌ茅ヶ岳に直接お問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

About Wine

アダージョ上ノ山2015
赤/マスカット・ベリーA

About Company

ドメヌ茅ヶ岳 安部 正彦
韮崎市上ノ山3159-1
TEL : 080-5534-1674
<http://d-kayagatake.com>

